

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

公明党

代表者名

畑尻 宣長

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和 6年 3月 28日提出

活動年月日	令和 6年 1月 9日 (火) ~ 令和 6年 1月 10日 (水)	
氏名	畑尻宣長 野島さつき 土谷直樹	
用務先 及び 内 容	1 1月 9日	用務先 大阪府 八尾市
		内 容 不登校の居場所づくり「メタバースde居場所」について
	2 1月 10日	用務先 兵庫県 尼崎市
		内 容 脱炭素化の取り組みについて
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

政務活動調査報告書

調査日	令和6年1月9日（火）
視察場所	大阪府 八尾市
調査項目	不登校の居場所づくり「メタバース de 居場所」について
視察者名	畑尻宣長 野島さつき 土谷直樹
市の概要	面積：41.72 km ² 人口：260,409 人 人口密度：6,241.82 人/km ² 世帯：127,300 世帯 経常収支比率：98.6% 実質公債費比率：3.4%

<八尾市の概況>

人口約26万人の中核都市

小学校 27校

中学校 14校

義務教育学校 1校

教職員総数 1,354 名 （令和5年5月1日）

児童生徒総数 18,600 名 （令和5年5月1日）



<対応の方向性>

「一人のこどもも取り残さない教育の実現」

<3つの目標>

- ① 新たな不登校児童生徒を生み出さない
- ② 学校内外の居場所づくり
- ③ どこにもつながっていない児童生徒を減らす
不登校児童生徒数の減少に向けた支援の充実
ICTの活用も含めた多様な教育機会や居場所の確保を図る

<校内での居場所づくりとして>

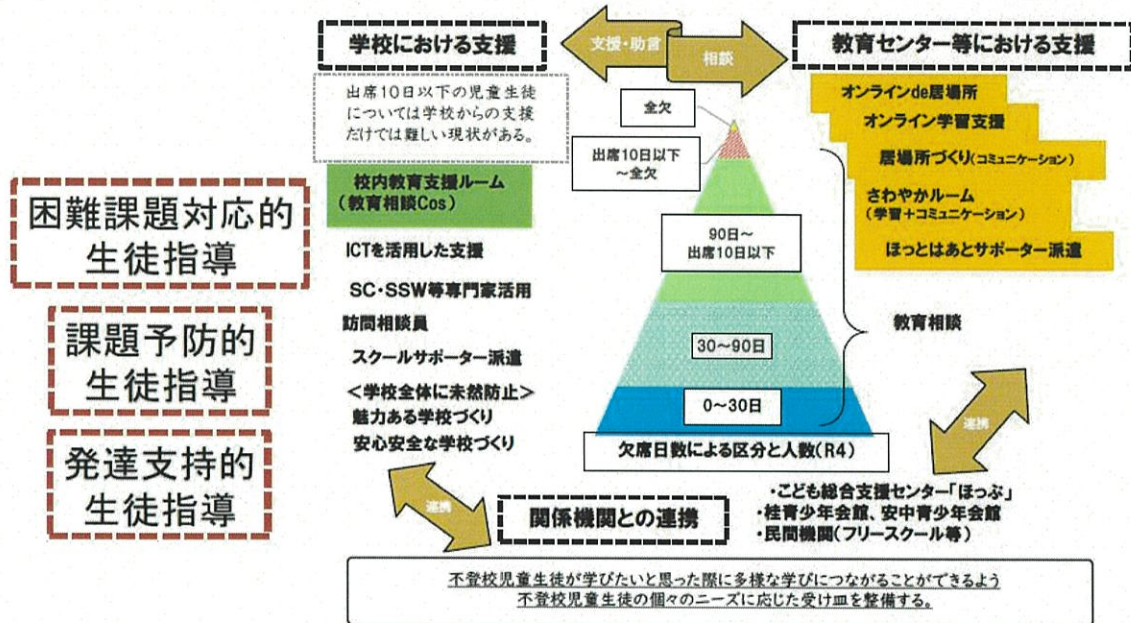
校内教育支援ルームの整備

取り組み好事例の収集と発信 ⇒ 研修、手引き等

（不登校等対策支援事業の加配は効果を実感）

<分析と方向性>

◆分析から見えてきた市内の不登校の状況や方向性



<ほっとはあとサポート事業> (八尾市不登校等対策支援事業)

既存の取組みに新たな取り組みを加えました。

ほっとはあとサポート

～八尾市不登校等対策支援事業～

長期欠席（不登校）の小中学生を支援します！！

病気や不登校等で欠席している小中学生が、主体的に社会生活に同方向よう、登校しなくなったきっかけや欠席が続いている理由に応じて、小中学生を支援する。学校、関係機関が効果的な連携を図り、適切な支援や働きかけを行います。

子どもの思い	コース	めざすもの
オンライン上で、話をしたり、活動したりしてみたい。	オンラインde居場所コース	2次元のバーチャル空間を活用し、クイズなどを通してコミュニケーションや共通の話題を持った人同士で会話などを行います。人との関わり方を学ぶことをめざします。
オンライン上で、学習をしたり、活動をしたりしてみたい。	オンライン学習支援コース	オンラインを活用した学習や体験活動を通して、学ぶ喜びや人とのつながりを実感し、社会的に自立していくことをめざします。
家や家の近くで、活動したり、話をしたりしてみたい。	ほっとはあとサポーター派遣コース	お近くの施設等に派遣員を派遣し、本人が希望する活動を一緒にやり、人との関わりやコミュニケーションを図ることをめざします。
のびのびと活動できる場所であそびたい。	居場所deほっとはあとサポーター派遣コース	自由にのびのびと過ごせる環境で、自分のペースで活動したり、学習や遊びをしたりすることを通して、決めた活動への参加を促すことをめざします。
得意なことを活かして活動してみたい。	教育相談コース	心身カウンセラーとゆとりと話をすることで不安や悩みを解決する支援をしたり、喜びを通して、心の安定を図り、自立を促すことをめざします。
学校とは違う場所で、少人数で学習や活動してみたい。	さわやかルーム通室コース	教育相談のアセスメントを踏まえながら、週4日、時間別にあって、午前10時から午後2時10分まで活動します。さまざまな活動を通して、児童生徒の社会的自立をめざします。

病気や不登校で欠席している八尾市在住の小中学生が対象となります。

- ※「オンラインコース」「オンライン学習支援コース」は八尾市立学校に在籍している小中学生が対象です。
- ※「さわやかルーム通室コース」は「教育相談コース」で、小規模での活動が適切なと判断された小中学生が対象となります。

【お問い合わせ・お申し込み先】 八尾市教育センター
八尾市永福二丁目117番地 TEL: 072-941-3365
【活動時間】 月曜～金曜 午前10時～午後2時10分（祝日も受け付けられません）

各コースのくわしい内容

オンラインde居場所コース

教育センター派遣員やほっとはあとサポーター（大学生）と2次元のバーチャル空間でクイズなどを通してコミュニケーションや共通の話題を持った人同士で会話などを行います。人との関わりやコミュニケーションに慣れることから始め、徐々に活動の意欲を促していきます。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市立学校に在籍する小中学生
【活動日時】 週2回、1時間程度
【活動場所】 各教室
【申し込み】 学校、教育センター

オンライン学習支援コース

児童生徒が端末を活用し、教育センターとオンライン（Teams、ロイノット）でつながり、個別学習、全体学習に取り組んだり、コミュニケーションを図ったりします。学習意欲や人とのつながりを実感し、社会的に自立していくことをめざしていきます。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市立学校に在籍する小中学生
【活動日時】 週4日、4コマ程度
【活動場所】 各教室
【申し込み】 学校、教育センター

ほっとはあとサポーター派遣コース

お近くの施設（青少年会館、教育センター等）にほっとはあとサポーター（大学生）を派遣します。コミュニケーションや遊び、学習など、本人が希望する活動と一緒に付くことを通じて、人との関わりやコミュニケーションを基本として活動の幅を広げていきます。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市在住の小中学生
【活動日時】 週1回1時間程度
【活動場所】 青少年会館、安中青少年会館、教育センター等
【申し込み】 教育センター

居場所deほっとはあとサポーター派遣コース

自由にのびのびと過ごせる場所で、自分のペースで活動したり、学習や遊びをしたりすることを通して、主体的な活動への意欲を高めることをめざします。いつまで、いつ解るかを主体的に決めてもらいます。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市在住の小中学生
【活動日時】 お申込み後、個別に調整します
【活動場所】 青少年会館、安中青少年会館、教育センター
【申し込み】 青少年会館、教育センター

教育相談コース

心身カウンセラーとゆとりと話をすることで不安や悩みを解決する支援をしたり、喜びを通して、心の安定を図り、自立を促すことをめざします。保護者の方だけでなく相談に来られることも可能です。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市在住の小中学生及び保護者
【活動日時】 お申込み後、個別に調整します
【活動場所】 教育センター
【申し込み】 教育センター

さわやかルーム通室コース

教育相談のアセスメントを踏まえながら、月、火、水、木の週4日、時間別にあって、午前10時から午後2時10分まで活動します。学校との連携を大切にし、さまざまな活動を通して、社会的自立をめざします。

【対象】 病気や不登校等で欠席している八尾市在住の小中学生で、教育相談コースで、小規模での活動が適切だと判断された小中学生
【活動場所】 さわやかルーム（教育センター内）
【申し込み】 教育センター

★ どのコースも学校と連携したうえでこなしていきます。

<学校外での居場所づくり>

学校以外の場所で子どもたちの安心できる居場所をつくる

○居場所で ほっとゆっくりコース

- ・青少年会館（八尾市内2カ所）

⇒午後は元々小学校を中心とした居場所づくりを行っている。

午前の時間帯を不登校児童生徒の居場所として活用。

青少年会館の職員に加え、学生サポーターも派遣している。

教育センターにおける居場所の充実



<オンライン学習支援の実施>

児童生徒用端末を活用した学習やコミュニケーション等の活動

- ・八尾市教育センターにて、
令和4年10月より開始

【使用機器】

- ・児童生徒用端末（パソコン）

【登録者数】

20名（令和4年度）

内訳・・・小学生4名

中学生16名

【活用アプリ】

- ・oVice
- ・Microsoft Teams
- ・ロイロノート
- ・eライブラリ

オンライン学習支援 オンラインde居場所

八尾市教育センターでは、学校への登校が難しい子どもが、関係の人とつながりながら、自分のペースで学習やさまざまな体験に挑戦できる居場所として、2カ所のリーチャル空間での「オンライン学習支援」「オンラインde居場所」を行います。

目的

病児や不登校等で欠席している小中学生が、ICTを活用した学習活動や学習を通して、人との関わりや学びを享受し、社会的に自立していくことをめざします。

対象者

病児や不登校等で欠席している八尾市立小学校に在籍している小中学生のうち、「オンライン学習支援」「オンラインde居場所」を希望している小中学生、小中学校各学年は、保護者と一緒に参加できることが望ましいです。

活動概要

学校から貸し出されている児童生徒用端末を活用し、Microsoft Teamsやロイロノート、oVice等でのコミュニケーションを図ったり、個別学習やグループ学習等を行います。活動する曜日や時間、内容は下表のようになります。定額料、会費は2カ所のリーチャル空間で、コミュニケーションを中心に活動します。

時間	月	火	水	木	金
10:30~10:45	MM (Morning Meeting) 参加確認、健康確認、学習の目標設定、学習準備(※1)				MM
10:45~11:30	学習活動等(※2)	学習活動等	学習活動等	チャレンジデー	学習活動等
HT (Heart Time) (1人1台の端末を1人1台使用する)					
11:40~13:15		昼食		教育センターの図書室、児童館への参加など、さまざまなチャレンジングな活動	昼食
13:15~14:05	(予備日)	居場所(※3)	(予備日)		居場所
14:05~14:15		HT			HT

(※1) 学習準備→学習の目標設定、書き取り、100文字1冊、等
 (※2) 学習活動等→個別学習(自己学習・学校のプリント、ワーク、eライブラリ等)、グループ学習(グループ学習を通して考える、発表、発表活動等)
 (※3) 交換活動(クイズ、おぼえ、ピラミッド、等) 等

小中学生と共同で活動して実施しますが、小中学生と共同で活動して実施します。

【実施曜日】

・月、火、木、金 10:30～11:45

＜メタバースの活用＞

学校への登校が難しい子どもが、周囲の人と繋がりながら、自分のペースで学習や様々な体験に取り組むお手伝いとして、2次元のバーチャル空間での「オンライン学習支援」「オンライン de 居場所」を行う。

令和5年6月・・・試行実施（5人まで利用可※無料トライアル）



令和5年8月下旬より、本格実施（50人まで利用可能）

※費用・・・年払い ¥6,650/月 $6,650 \times 12 \text{ カ月} \times 1.1 = 87,780 \text{ 円}$



結果・反応

- ・学校でテストを受けてみたい。
- ・自宅で、郵便の受け取りが出来るようになった。
- ・散歩が出来るようになった。

等々

＜今後＞

「不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」

（COCOLO プラン）

⇒ 様々なニーズに応じた受け皿を整備していく



<所 感>・・・畑尻宣長

八尾市の教育長である浦上弘明氏が、かつてフリースクールを運営し、不登校の子供たちと向き合ってきており、「学校に戻すための支援ではなく、彼らが自分を取り戻し、明日への糧を得られる居場所を作ることが大切だ」と強調され、不登校児童生徒の支援策を進められてきました。その中に多様な学びを実現するためにメタバースを取り入れて、学校とのつながりを深めていくというものです。これまでの不登校児童生徒数の減少に向けた取組みと共に、大阪府の教育フォーラムで好事例として研究発表もされました。

不登校児童生徒に対しての支援は、校内での居場所づくりとしての校内教育支援ルームを整備し、研修、手引き等で対応しています。その為の加配まですることによる効果は実感しているようでありました。学校まで行けない子供たちには、学校外での居場所として、八尾市内で2か所設けられ、主に午前の時間帯で居場所として活用されています。ここでは、年齢の近い学生サポーターが活躍しています。学習や話し相手になるなど、寄り添った対応をしてもらっています。このような学生サポーターの活用は、本市ではないことですので、不登校支援等に興味がある学生さんがいるのであれば、どこまで携わるかはしっかり検討するべきではありますが、検討してみても良いのではないかと思います。

相談体制（教育センター）から、学校外での居場所（市内2カ所）、学校内での居場所と、子どもの状況に応じた対応が取れる体制となっていることがわかりました。その上で、オンライン上での居場所の確保ということでの、仮想空間を使ったバーチャルでの取り組みです。

アバターを利用することで、一步、外へ出るというハードルを越えやすくする効果は理解出来ます。それ以上に、準備する教員、支援員のスキルが問われると感じました。顔が見えない状態だからこそ可能となるつながりを、いかにして現実空間へと繋げていくのかというところを今後も注視していきたいと考えています。子どもたちが抱えている課題は、1人1人違います。どこまで寄り添えるのか、どうやって寄り添っていくのか、悩ましい課題ではありますが、多様な受け皿を作っておくことは重要だと思います。その点で、ICTの活用としてのメタバースを利用することは、ひとつの手段として有効だと感じています。

本市では、フリースクールが広がりつつあります。長期欠席生徒については、全国的に増加傾向にある中、本市は横ばい、減少傾向にあることは効果があることが証明されています。これを維持するのではなく、さらに環境整備する上でのツールとしての活用として検討していければと考えています。ICTの技術も進んでいます。さらに良いものが出てくることも想定されますので、動向を探りながら提案して参りたいと思います。

<所 感>・・・野島さつき

文部科学省の発表によりますと、2022年度に病気などの理由以外で30日以上欠席した不登校の小中学生が、過去最多の29万9,048人に上りました。増加は10年連続で、特に21、22年度の増え幅が大きく、計約10万人も多くなりました。コロナ禍の長期化で生活環境が変化し、生活リズムが乱れやすい状況が続いたことなどが背景として考えられますが、不安や悩みを抱え込んでいる子どもが、いかに多いかが数字として明らかになりました。

各学校にとって、増加する長期欠席者への対応は重要な課題となっています。本市におい

ても、適応指導教室や校内フリースクールの取組や、スクールソーシャルワーカーの増員など、一人一人に適した支援が提供されるようご尽力いただき、少しずつ成果も現れています。

今回視察した八尾市でも、不登校の児童、生徒が増加傾向で、2022年3月時点で437人となりました。市教育センターでの教育相談や学習支援、学校外での居場所づくり、学生サポーターの派遣等を実施し、2022年10月以降は、外出が難しい子どもたちのために、チャットアプリ「Teams」を活用し、オンラインでの学習支援も行ってきました。しかし、2022年度の「Teams」登録者は20人でした。不登校の子供を支援するNPO法人の理事長を務めた経験のある浦上弘明教育長は、民間ではすでに活用されている仮想空間を活用した居場所づくりを提案。2023年5月から不登校の中学生4人を対象に試験運用したところ、会話は生まれにくいですが、参加者が意見を発表するなどし、「コミュニケーションの幅を広げられそう」「イラストがかわいくて、雰囲気やわらかい」と前向きな声上がり、2学期から本格的にスタートすることになりました。

仮想空間を使った「居場所」は市販のソフトを利用しており、児童、生徒は自宅などからタブレット端末で参加し、ウサギやゾウなどの動物のキャラクターなどを自身の「アバター（分身）」として操作し、平日週4日、朝から夕方まで開室しており、自由に入退室できるようになっています。「居場所」の背景は月ごとに変わり、「学校」というイメージを出さないように工夫されています。そこには、いつも「ほっとはあと君」（教育センター梅北教諭）がいて、クイズなどを通したコミュニケーションや共通の話題を持った同士での会話などを行います。何も言わずちょっと覗くだけでもOKです。大学生もサポートに入っており、子どもたちが少しでも社会と接点を持てるよう、工夫を凝らした「居場所」づくりをしていました。

浦上教育長は、「これからの時代は、一律に学校に戻すことだけが支援ではない。不登校を経験しても、社会に出て活躍している人はいる。学校に通えなくなった子どもたちが少しでも明るさを取り戻し、社会とかかわり、自分の道を見つけて生きていくことができるような支援をしていきたい」と言われました。

学校に来られない児童、生徒にどう手を差し伸べていけばいいのか、一人一人ケースも違い難しい問題だと思いますが、子どもたちが「生きていく力」を持てるよう、今後も全国の先進事例などを研究し、提案していきたいと思います。

<所 感>・・・土谷直樹

八尾市の「メタバース de 居場所」は不登校の小中学生に焦点を当て、彼らが社会的なつながりを持ち、学習を続けることができるような新しい環境を提供することを目的としています。メタバースという仮想空間を利用することで、子どもたちは物理的な制約から解放され、自宅にいながらにして交流や学習の機会を得ることができます。

教育の場が従来の学校の教室から、オンラインの仮想空間へと拡張している現実です。メタバース内での活動は、子どもたちにとって安全で、かつ自由な表現が可能な場を提供し、彼らが自己肯定感を高め、社会性を培う手助けをしています。特に注目すべきは、アバターを使用することで顔出しの必要がなく、プライバシーを保ちながら参加できる点です。これに

より、不登校の子どもたちが抱える心理的なハードルを低減し、より気軽に参加することが可能になります。

しかし、メタバースを活用した教育にはまだ課題が存在します。効果的なコンテンツの作成や、支援が必要な生徒へのアプローチ方法の開発は、今後の展開において重要なポイントとなると考えます。メタバースが提供する可能性は計り知れないものがありますが、それを教育において最大限に活かすためには、技術的な進歩だけでなく、教育者の理解と創造性が求められます。

メタバース内では、リビングのような温かい雰囲気的空間が提供され、子どもたちはウサギやゾウなどのアバターを通じて集まります。漢字クイズ、計算ドリル、動画視聴などの活動を通じて、顔出し不要で安全な環境の中で交流し、学習することができます。

今回、ノートパソコンで実際に実施されている場面を観させていただきながら説明を受けました。このインターネット上の仮想空間には、サポートの方もアバターで入っており、上手に子どもたちをリードしているとの事でした。

メタバースがもたらす新しい学習の形は、子どもたちの可能性を広げ、教育の未来を形作る重要な一歩となると思います。今後もこのプロジェクトの進捗に注目し、その成果が他の地域や教育機関にも波及していくことを期待します。

「メタバース de 居場所」の取組みは、教育技術の進化とともに、さらなる発展を遂げることと思います。今回の行政調査を、今後、本市の施策に生かしていけるよう取組んでまいります。

以 上

政務活動調査報告書

調査日	令和6年1月10日（水）
視察場所	兵庫県 尼崎市
調査項目	脱炭素化の取り組みについて
視察者名	畑尻宣長
市の概要	面積：50.71 km ² 人口：454,887 人 人口密度：8,970.36 人/km ² 世帯：224,672 世帯 経常収支比率：97.0% 実質公債費比率：8.5%

<脱炭素先行地域の選定> （経済観光振興課、環境創造課）

2025年2月に人口減少が進む市南部大物地域の小田南公園に阪神タイガースファーム施設が移転することに合わせ、新たに建設される選手寮・室内練習場。2軍球場施設に太陽光・蓄電池を導入するとともに、自営線による同施設間の電力融通を行った上、不足する電力をゴミ発電の余剰電力を活用しゼロカーボンベースボールパークを実現していく。あわせて近隣の公園緑地や阪神電車の駅（6駅）においても太陽光等による脱炭素化を図るとともに、EVバス導入、ゼロカーボンナイターの開催等を行い、相乗効果を図る。

令和4年度から順次設計・工事等に着手しており、2025年2月球場のオープンを予定している。2030年までに民生部門のゼロカーボンを達成する予定。

【スケジュール】

- 令和4年度 小田南公園の設計
- 令和5年度 小田南公園の再整備工事
大物駅・杭瀬駅の太陽光パネル工事
- 令和6年度 小田南公園の再整備工事
大物川緑地の再整備工事
大物駅のLED化
センタープール前駅の太陽光パネル工事
- 令和7年度 大物公園の再整備工事
武庫川駅の太陽光パネル工事
センタープール前駅・尼崎駅のLED工事
- 令和8年度 大物・杭瀬・出屋敷駅のLED工事



<脱炭素に向けての取り組み>

① 産業・民生業務部門の取組

- ・ 尼崎市エネルギーの地産地消促進事業
- ・ スマートマンション普及促進事業
- ・ 脱炭素化設備等導入促進事業
- ・ 公共建築物における脱炭素化の推進
- ・ 公共施設の屋根貸し事業
- ・ 脱炭素先行地域推進事業



② 家庭部門の取組

- ・ 太陽光発電及び蓄電池の共同購入事業
- ・ 給水機設置によるマイボトル普及促進事業
- ・ 尼崎市 ZEH 普及促進事業補助金
- ・ 地域通貨を活用したクールチョイスの推進事業

給水機の設置は、R4 から進めている
現在 市内 36 か所に給水スポット有
(企業による設置のため、0 予算事業)

③ 運輸部門の取組

- ・ 尼崎市グリーンビークル導入補助制度
- ・ EV カーシェアの普及促進
- ・ 公用車へのエコカー導入実施

<脱炭素化設備等導入促進支援事業>

(1) 省エネ診断の受診

簡易省エネ診断：診断無料

省エネ最適化診断：全額補助

【R5 実績】 診断 19 件（うち補助金 13 件）

簡易省エネ診断 134 件

【R4 実績】 診断 30 件（うち補助金 21 件）

(2) 診断結果に基づいたアドバイス

(3) 省エネ設備導入補助金

補助対象経費：空調・照明設備等、補助上限：100万円、補助率：2／3

【R5 実績】 118 件、8,712 万円

【R4 実績】 15 件、972 万円

(4) 再エネ設備導入補助金

補助対象経費・補助額：太陽光発電 25,000 円／kwh、蓄電池：5 万円／kwh

補助上限額：200 万円

【R5 実績】 2 件、29.9 万円

【R4 実績】 1 件、120 万円



＜カーボンニュートラルオープンファクトリー＞

尼崎市で初となる地域一体型オープンファクトリーイベント「あまがさきエリア モノづくりパビリオン～ゼロカーボンをめざす企業で工場見学・モノづくり体験～」を開催。

11の企業が参加し、バスや徒歩で巡る工場見学ツアーと、展示・ワークショップという2つの「パビリオン」を構成し、2日間でおよそ640人が来場しました。

【実績】

・工場見学

12/8 (金) 121 人

12/9 (土) 85 人

・ワークショップ^o

12/9 (土) 435 人

内訳

企業・大人 220 人

高校生・大学生

45 人

中学生以下 170 人

[illegible]

あまがさきエリア

モノづくりパビリオン

付ロカーボンをめざす企業で工場見学・モノづくり体験

2023. 12/8(金)-9(土)

雨天決行

参加無料

オープンファクトリー（工場見学）

①12/8(土) 13:00-17:00
 ②12/8(土) 18:00-21:00
 ③12/9(日) 10:00-17:00
 ※12/8(土) 18:00-21:00は、12/8(土) 13:00-17:00と同様に、100%カーボンフットプリント削減を実現する企業で工場見学・モノづくり体験を実施します。

展示・ワークショップ

12/9(日) 10:00-17:00
 ※12/9(日) 10:00-17:00は、12/9(日) 10:00-17:00に、100%カーボンフットプリント削減を実現する企業で工場見学・モノづくり体験を実施します。

※12/8(土) 13:00-17:00は、12/8(土) 13:00-17:00に、100%カーボンフットプリント削減を実現する企業で工場見学・モノづくり体験を実施します。

工場見学

OPEN FACTORY

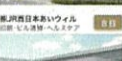
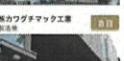
オープンファクトリーでは、ゼロエミッションをめざして積極的に取り組んでいる
最先端の企業を紹介。その取り組みの真相を知ることができます。
ゼロカーボンへの関心や企業理解を促進させ、さらなるゼロエミッションの推進
と、産業の活性化を図ることをねらいとして開催します。

※参加費は無料です。参加費の代わりに、参加チケットを贈呈して頂いております。

12/8(水) 13:00-17:00
12/9(土) 10:00-17:00



見学企業一覧

北エリア		中央エリア		南エリア	
高特免製造機作所 製造所	資材機器工業所 製造所	山口工業、タウトラボ 製造所	高力ワグドマック工業 製造所	高松木工機工 製造所	日経電工業 製造所
					
日永ゼンデル製造所 製造所	東洋国産日本あいワイル 展示・工場見学				
					
高平マシナークラス 製造所	中々製作所 製造所	高松木工機工 製造所			
					
山口電機工業 高松工場・高松設計工場		日経電工業 製造所			
					



[illegible]

＜今後の課題と展開＞

部門別では、R3/H25 削減率が、家庭部門△27.6%、運輸部門△7.5%と他の部門に比べ低いため、この2部門のCO2削減が課題である。市民・事業者は国の制度等を積極的に利用をすすめるとともに、家庭・運輸部門にとどまらず全部門のCO2排出量削減を推進していく。

<所 感>・・・畑尻宣長

尼崎市の環境部の位置付けが本市とは大きく異なっています。経済環境局 環境部 環境創造課 となっており、横並びに、経済観光振興課があります。同じ部局内にある為、環境政策の中に経済振興が混在できることにより、本市では縦割りの中で進めにくい政策が進められていました。その一つが、カーボンニュートラルオープンファクトリーです。11 の企業の協力のもと、進められました。これは、来場者や参加企業同士の交流による生じるイノベーションや、経済的利益追求だけではなく、雇用創出や生産性向上といった社会的な共通課題の解決の手段としても期待ができる取り組みです。この中に、脱炭素化の取り組みの紹介がありました。11 の企業が現在取り組んでいる脱炭素化の取り組みを見てもらう工場見学ツアーが組まれました。企業の取り組みを紹介するとともに、人材確保に向けたアピールにもなります。環境施策だけにとどまらず、より広く社会貢献、脱炭素化の取り組みなどに繋がっていると感じました。この取り組みは今後も続けられていく予定だと伺いました。本市でも脱炭素化の取り組みを推進している企業は多くあると思います。協力してくれる企業を増やすためにも、取り組んでみる価値はあると考えます。

また、SDGs の観点からも、給水スポットの拡充も重要な取り組みだと考え一般質問でも取り上げましたが、尼崎市では、すでに36 か所も設置されています。しかもゼロ予算で行っています。本市では、これから拡大をしていくことを期待していますが、今後、企業さんからの手助けも借りられるような取り組みも進めて頂けるよう提案していきたいと考えています。同時に、マイボトルを推奨していますが、「アマガサキ」とシールが貼ってあるボトルを、市が500円で販売しています。PRする意味でも、取り組んでいくことも必要ではないかと思いました。

小さなことの積み重ねになりますが、今出来ることを一步一步進めていくべきと考え、粘り強く進めていきます。

以 上